

7月に日本法人を設立したカナダのソフトウェア会社カッパーリーフ・テクノロジーズ。北米を中心に欧州などにも展開する同社は、インフラ設備のアセットマネジメント（資産管理）が強み。長期的な健全性の把握や運用コストの分析が可能で、インフラ関係企業の投資決定や計画立案に貢献してきた。このほど来日した同社のボードウィン・ネイジェンSCMO（最高マーケティング責任者）とポール・サクルゼウスキー・アジア太平洋&日本マネージング・ディレクターに製品の強みや日本進出の狙いを聞いた。

（聞き手＝湯川 努）

## インタビュー Interview

修繕費や人件費も容易に示せる。一つの投資判断が長期計画で掲げた利益目標にどれほど貢献できるかも提示することが可能だ」

——日本のビジネスを手応えは。を減らしていくに投資の効果を最大化できるか。当社のソフトウェアなら貢献できる」

サクルゼウスキー氏「当社のソフトウェアを導入した海外企業は、離脱することなく順調に継続利用している。これを日本でも再現したい。ソフトウェアを導入すると長期のお付き合いになる。日本法人には技術者を配置し、より良い関係の構築に力を入れる」

ネイジェンズ氏「企業によって資産管理の価値観が異なるため、定量的には言えない。運用コストを下げるのか、顧客満足度を高めるのか、再生可能エネルギーの導入量を優先するのか。様々な考えがあるが、当社は各社の戦略に沿った提案ができる」

### 多数の海外実績

——日本進出の狙いは。水道、電気、ガス業界%低減した」に採用されてきた。水「主力のソフトウェア道事業では運用コストア『C55』は大規模なを約5割削減した実績 資産を長期的に管理で

サクルゼウスキー氏「今、日本の電力業 業でも運用コストを16 送料金の算定に必要な

### インフラ資産管理に強み

# 投資対効果が見える化

界は大きな変革期を迎えている。設備をどのように維持管理して、

長期的にコストを減らすのか、また設備をどのように構築して利益を出すのか。英国などは数年前にこの問題を抱えていた。当社は海外で多数の設備管理の実績を持つ。日本企業に技術を提供して設備の価値向上に貢献したい」

——ソフトウェアの強みは。

ネイジェンズ氏「世界の鉄道、石油、

## カッパーリーフ・テクノロジーズ



マネージング・ディレクター

ポール・サクルゼウスキー氏

CMO

ボードウィン・ネイジェンズ氏

——日本法人の設立と同時にオーストラリア、シンガポールにも拠点を設立する。日本法人の位置付けは。サクルゼウスキー氏「オーストラリアの企業は既に資産管理に積極的だ。ソフトウェアを提供する同業他社との競争も激しい。一方、日本は今後、競争が本格化する市場。これからPRを強化していく。シンガポールを含むアジアもこれから市場が伸びる。将来的には香港やマレーシアも重要な市場になるだろう」